



10 月末の季節外れの台風一過、エルミタージュの西空に朝な夕な、富士山が姿を見せてくれるようになりました。空気が乾燥してきているのでしょうか。富士山を眺めるのが日課になった今日この頃です。今年はベランダで 3 年目のクリスマスを迎えるクリスマスホリデーが赤い実を鈴なりに付けています。鳥に狙われないように大きいビニールで覆いましたが、完熟していないようで、鳥はまだ寄ってきておりません。

秋には敬老の日、秋分の日、体育の日、文化の日、勤労感謝の日と祝日がありますが、何といても「文化の日」が重要です。なぜなら、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨として法律で定められた祝日であるからです。その趣旨に従って、憲法がこの日に公布されたのです。

この日、私たちは市民の自主的活動である、「安倍 9 条改憲 NO ! 全国市民アクション」国会包囲大行動に参加し、国会前で平和憲法を守ろうと誓い、心を一つにして訴えたのです。何人かの友人が参加すると連絡を入れてくれましたが、4 万人もの人々が国会を包囲したので、出会うことが出来ませんでした。私も港南台 9 条の会、根岸線沿線 9 条の会の幟を持って出かけました。

多くの方々がアピールされましたが、私の友人の友人である「核兵器廃絶国際キャンペーン ICAN」の賛同団体ピースボートの川崎哲氏のスピーチを聞いて、とても感動しました。「北朝鮮の核開発、ミサイルを、脅威だ！ 国難だ！ と、安倍政権は国民に訴え、圧力で対応すると言いつつ、日本は被爆国で核兵器の残酷さ、恐ろしさが一番知っている。その日本こそ、核兵器廃絶の先頭に立たなければならない。条約を批准するならば、北朝鮮に核開発を断念するよう要求できる」と言われます。苦しむ人々に寄り添う温かい愛情、自らを律し、品位ある姿勢で、共に問題を解決しようとする知性ある日本人の生き方を訴えておられます。そして、私はこれこそ、まっとうな国際間の紛争の解決手段だと信じます。アメリカ追従の安倍政権は本当に日本の政権なのか、疑問に感じてしまいます。閉会后、議事堂の傍の地下鉄まで歩きましたが、警備が物々しく、議事堂が国民から浮いた、遠い建物になっているという思いを感じつつ、国会を後にしました。



エルミタージュに帰るとほっとします。穏やかな小春日和で、こんもりと茂った木々の間の小径を歩く時、自然の力に癒される気持ちになります。ニシキギやドウダンツツジの深紅の葉、ヤマモミジやさくらの黄葉、ケヤキやメタセコイアの落ち葉、実をつけた木々、花をつけ始めた木々、本当に自然は何気なく、身を与えて、燃やしながら、移りゆくと感じます。



ベランダの薔薇の鉢も、今年最後の力を振り絞って、一鉢に一輪の薔薇の花を咲かせています。弱々し気ながら、朱、ピンク、オレンジ、白、赤、牡丹色など、それぞれ色とりどりに咲いています。この花たちが終わったら、少し土を変えて、薔薇用培養土をくわえ、肥料を足してみようと思っています。何しろ、全く園芸には無知で、ただ、頂いたブーケから、元気のいい一枝を切り、挿し木をして、育てているだけの薔薇ですから、「各自、思うように育てね」というしか、ありません。それぞれの薔薇に、勝手に名前を付けています。「いい子に育てね。大きくなってね」と、子どもに言うように、朝、晩、声をかけているのです。時々、「水をやるのを忘れた！」など、無責任をも許してもらっています。深まりゆく秋の窓辺のしばしの賑わいです。